

# 12月定例会 市長説明

齊藤市長が行った市長説明の中から、市民の皆さんに関わりの深い内容を抜粋してお知らせします。

問合せ 総務課

TEL 89・2113

## ■ツキノワグマの出没対応

本市においても、市街地などへの出没が相次ぎ、11月30日現在、目撃件数は287件、捕獲頭数は95頭で、いずれも過去最高であった令和5年度を上回っており、人身事故も1件発生しています。このため市では、緩衝帯の整備や放任果樹の伐採支援など、出没を抑制するための対策に加え、出没時には注意喚起を行うとともに、鳥獣被害対策実施隊や警察と連携し、警戒巡回や箱わなによる有害捕獲を行うなど、被害の未然防止に最大限努めています。この間、特に実施隊の皆さまには、延べ1762人にも

及ぶ方々に危険な現場へ出勤していただいております、その御尽力に深く感謝を申し上げます。

今後実施隊や関係機関などと連携しながら、市民の安全安心のため、総合的な被害防止対策に努めていきます。市民の皆さまにおかれましては、外出の際は鈴やラジオ等、音の出る物を身に着けるなど、基本的な対策を徹底するようお願いいたします。

## ■外国人材の活用および地域との多文化共生

地元企業の人材不足対策として、市では職員がインドネシアやベトナムなどを訪問して教育環境を視察し、日本語教室や送り出し機関とのパイプ作りなどを行っています。

こうした中、11月12日にインドネシアのブカシ市で日本語学校を運営している

LPK<sup>エルピーケー</sup> HADETAMA<sup>ハダタマ</sup>に、能代市を中心とした県内企業で働く人材向けのCOCOROC<sup>ココロコ</sup> Class<sup>クラス</sup>が開設されました。このクラスは、企業に内定した外国人材とSNSなどを活用して入国前から継続的なコミュニケーションを取り合うことで、既に能代で働いている外国人材も含めたコミュニティを形成していくことを目的としています。

市としては、今後さらに外国人材の増加が予想されることから、日本語勉強会の開催や、日本人と外国人材が双方でコミュニケーションが取れる環境の整備など、多文化共生の取り組みを進めていきます。

## ■令和8年度全国ねぎサミットの招致

兵庫県朝来市で開催された「全国ねぎサミット2025 in あさご」において、

本市が来年度の開催地として正式決定されました。これを受け、8年1月には「(仮称)全国ねぎサミット2026 in のしろ準備委員会」を立ち上げ、関係機関および諸団体の皆さまと連携し、協議を進めていきたいと考えています。

白神ねぎのさらなるブランド力強化や産地化に向けた契機とするともに、能代山本地域の知名度向上とイメージアップに努めていきます。

※市長説明の全文は市ホームページに掲載しています。



## 今定例会に提案された一般会計補正予算

■一般会計補正額	4億6,242万1千円
主な補正予算(歳出)の内容	
○令和7年大雨被害による農業経営等継続支援対策事業費補助金	2,403万円
○道路河川災害復旧事業費	8,920万円
○檜山安東氏城館跡災害復旧事業費	843万7千円
■補正後の予算総額	397億6,907万6千円

